



誰でもなれる「ゲートキーパー」

ゲートキーパーとは、自殺に傾いている人の心の SOS にいち 早く気付き、支え、専門職につなぐ「門番」となる人のことです。 特別な資格は必要ありません。行政の関係者や医療従事者だけ でなく、家族や友人などさまざまな人がその役割を担うことが 期待されています。市では本年度、広く皆さんを対象にした「ゲ ートキーパー研修」を開催する予定です。

ゲートキーパー4つの役割

家族や仲間の変化に気づいて、 声を掛ける

本人の気持ちを尊重し、耳を傾ける

早めに専門家に相談するように促す

見守り

温かく寄り添いながら、じっくり見守る

解決方法は一つではない

切になると思います」。

合、どのような方法で最悪のケー スを防ぐか聞きました。 最後に、実際に相談を受けた場 自分自身す

活に追われ、難しいこともあるか ごしてしまうかもしれません。 だと話します。 も一度立ち止まってみることも大 もしれませんが、そのような中で を保っていないと人の変化を見過 す。それには自分自身が良い状態 ンテナを高くする必要がありま

生

今、悩みを抱えている皆さんへ

心身の不調や不安があったりしたら、決 して一人で悩みを抱えず、まずは誰かに 話してみてください。

●こころの健康相談統一ダイヤル 0570-064-556

●冊子「いのちとくらしの相談窓口一覧」

市では、お悩みの内容に応じて相談でき る各種窓口をご案内する一覧表を作成し ました。各庁舎、関係機関に配付・設置 していますのでご活用ください。

問題は、 二宮さんは言います。 懇談会など身近なところで、 多いので、 全てではありませんがいつもと変 まずは自分を良い状態に 近こどもたちに変わった様子はな わった様子や変化に現れることが あります。そして、そのサインは、 がきっかけとなり、それをどう受 いか』と話題にするのも、 止めるかとい 誰しもが関わる可能性が 例えば、子どもの地区 う点では、自死の 地域で 量

また、 「サインに気付くためには、 聞き手の心の状態も重要

況に応じて専門職につなぐことも 行動を知り得ていく過程を支えて 至らなくても、 が大切なのです。 行動は何かを、 決方法は一つではなく、 押し付けず、 や考えに耳を傾けます。 る環境や追いつめられて いくことが必要です。 くステップを踏み、新たな考えや まずは、 否定はしません。 そこに近づいて 置かれ そして、 いる辛 7

状況、狭めざるをえなかった視野 でに結論を出している場合が多 一緒に考える姿勢 仮に問題解決に 価値観を 今できる 解

大切な 命を守るために できること。

精神保健福祉士

二宮 美和 さん

自殺に傾いている人の心のSOS

でいます。ゲー

トキー

パーとは、

にいち早く気付き、話に耳を傾け、

チした人は

●プロフィル

フリーランス ソーシャルワーカー 県精神保健福祉士 協会理事。精神科病院で相談業務に従事。企業では、 障害者雇用の促進とメンタルヘルスに関する支援を行 っている。県精神保健福祉士協会では、ゲートキーパ ー研修を企画・開催。

> 地域の中で自死予防を担える「ゲ の二宮さん。県協会の事業として、 まず知ることが大切です」。 までの経過として、 うこともありますが、 命の門番「ゲートキーパ にある場合が多いです。 度に抱え、 「自死は、衝動的に起きてしま そう話すのは、精神保健福祉士 トキーパー」の養成に取り組ん 追い詰められた状況 複数の問題を そこに至る それを、

(表1) 安曇野市における自殺の特徴

- 男性の割合が高い(73%)
- ●年代 30~59歳の働き盛りの年代が多い(54%)
- ●職業状況 有職者が多め(57%)

(※ 20 ~ 59 歳を対象にした集計の結果)

- ●同居人 同居人がいる人が多い(81%)
 - ~ 安曇野市自殺対策計画より(H31.3)~

を得ることも大切です」。 同時に、自死に関する正し の変化に日頃から気を掛け合い、 に多くいることと、 力者へつなげます。 11 知識

16人が命絶つ

たいものです。 人の 「命」は何もの しかし、

死亡率は、全国・県と同様に減少 後を絶ちません。 ています。 間2万人以上の命が自殺で失われ は他の主要国と比べると高く、 人あたりの自殺による死亡者数) 我が国の自殺死亡率 また、 安曇野市の自殺 (人口10万 年

にも代えが 自殺者は

誰しもが関わる可能性

んなことが必要なのでしょうか 人のサインを拾い上げるため、 ことから影響を受けていて、 見過ごしてしまいがちな身近な 「私たちは、人生の中で色々な

が自殺で命を落としています。(左

していますが、

年間16人 (H28)

上グラフ)

合える環境づくりが欠かせませ った人が、専門職だけでなく地域 ん。一緒に働いている仲間や家族 人で抱え解決 つながり支え この視点を